

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
320228	X-21-B-1-320228						
授業科目	担当教員						
中国語 1 bA	尹 美蓮	1	前期	【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1~3年次生】経営情報学部経営学科 【1~3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × × ×	選択必修 選択必修 選択 × × × ×	1年 1年 1年 × × × ×

授業目的

中国語は世界的に見ても幅広く話されており、今もなお中国語圏は急速に拡大しています。「中国語」は新しいキャリアや可能性を開く扉になる可能性を秘めており、如何に正確かつ応用の利く中国語を身に付けるかが重要になっている。中国語学習の基礎となるピンイン・声調一「発音編」の学習と「使える」中国語を目指す「会話編」の学習を通じて、発音練習や会話・作文練習をくり返し、正確な発音と適切な表現力を着実に身につけることを実現し、コミュニケーション能力の更なる向上を目指す。

各回の授業内容

第1回	【授】 声調と母音（一）：四声、单母音・捲舌母音・複母音 【前・後】 必ず予習・復習すること。【発音編】の学習段階にあたっては、①これから学ぶ内容を事前に付属CDを活用し、くり返し聞いておくこと、②既習の内容を授業後付属CDを活用し、くり返し聞ながら発音すること。	第9回	【授】 第2課：場所代名詞、疑問詞疑問文、「吗」「吧」「呢」を用いる疑問文 【前・後】 必ず予習・復習すること。【予習2時間】新出単語を音読しておく。文法ポイントを予習ておく。【復習2時間】既習した単語、例文、本文をピンイン付きで書く練習をする。付属CDを活用し、単語、例文、本文をくり返し音読すること。
第2回	【授】 子音 【前・後】 必ず予習・復習すること。【発音編】の学習段階にあたっては、①これから学ぶ内容を事前に付属CDを活用し、くり返し聞いておくこと、②既習の内容を授業後付属CDを活用し、くり返し聞ながら発音すること。	第10回	【授】 第2課：会話・作文練習 【前・後】 必ず予習・復習すること。【予習2時間】新出単語を音読しておく。文法ポイントを予習しておく。【復習2時間】既習した単語、例文、本文をピンイン付きで書く練習をする。付属CDを活用し、単語、例文、本文をくり返し音読すること。
第3回	【授】 子音と母音（一）の組み合わせ練習 【前・後】 必ず予習・復習すること。【発音編】の学習段階にあたっては、①これから学ぶ内容を事前に付属CDを活用し、くり返し聞いておくこと、②既習の内容を授業後付属CDを活用し、くり返し聞ながら発音すること。	第11回	【授】 第3課：動詞述語文（二） 【前・後】 必ず予習・復習すること。【予習2時間】新出単語を音読しておく。文法ポイントを予習しておく。【復習2時間】既習した単語、例文、本文をピンイン付きで書く練習をする。付属CDを活用し、単語、例文、本文をくり返し音読すること。
第4回	【授】 母音（二）：前鼻音と後鼻音 【前・後】 必ず予習・復習すること。【発音編】の学習段階にあたっては、①これから学ぶ内容を事前に付属CDを活用し、くり返し聞いておくこと、②既習の内容を授業後付属CDを活用し、くり返し聞ながら発音すること。	第12回	【授】 第3課：会話・作文練習 【前・後】 必ず予習・復習すること。【予習2時間】新出単語を音読しておく。文法ポイントを予習しておく。【復習2時間】既習した単語、例文、本文をピンイン付きで書く練習をする。付属CDを活用し、単語、例文、本文をくり返し音読すること。
第5回	【授】 子音と母音（二）の組み合わせ練習 【前・後】 必ず予習・復習すること。【発音編】の学習段階にあたっては、①これから学ぶ内容を事前に付属CDを活用し、くり返し聞いておくこと、②既習の内容を授業後付属CDを活用し、くり返し聞ながら発音すること。	第13回	【授】 第4課：親族呼称、所有を表す“有”、数詞の“2” 【前・後】 必ず予習・復習すること。【予習2時間】新出単語を音読しておく。文法ポイントを予習しておく。【復習2時間】既習した単語、例文、本文をピンイン付きで書く練習をする。付属CDを活用し、単語、例文、本文をくり返し音読すること。
第6回	【授】 【発音編】総合練習（一） 【前・後】 必ず予習・復習すること。【発音編】の学習段階にあたっては、①これから学ぶ内容を事前に付属CDを活用し、くり返し聞いておくこと、②既習の内容を授業後付属CDを活用し、くり返し聞ながら発音すること。	第14回	【授】 第4課：会話・作文練習 【前・後】 必ず予習・復習すること。【予習2時間】新出単語を音読しておく。文法ポイントを予習しておく。【復習2時間】既習した単語、例文、本文をピンイン付きで書く練習をする。付属CDを活用し、単語、例文、本文をくり返し音読すること。
第7回	【授】 【発音編】総合練習（二） 【前・後】 必ず予習・復習すること。【発音編】の学習段階にあたっては、①これから学ぶ内容を事前に付属CDを活用し、くり返し聞いておくこと、②既習の内容を授業後付属CDを活用し、くり返し聞ながら発音すること。	第15回	【授】 課題：作文「自己紹介」漢字120~150字程度 【前・後】 授業の代わりに課題を提出していただく。提出期限及び方法等に関しては、第14回目の授業にて明示。
第8回	【授】 中間テスト：発音編小テスト＆第1課：人称代名詞、動詞述語文（一）、会話・作文練習 【前・後】 必ず予習・復習すること。【予習2時間】新出単語を音読しておく。文法ポイントを予習しておく。【復習2時間】既習した単語、例文、本文をピンイン付きで書く練習をすること。付属CDを活用し、単語、例文、本文をくり返し音読すること。	第16回	【授】 期末試験 【前・後】 【復習2時間以上】主として教科書の内容から出題する。

成績評価方法

【成績評価】中間テスト20%、期末試験20%、授業への取り組み（予習・復習状況、授業態度など）30%、授業参加状況30%を合わせて総合的に評価する。

【フィードバックの方法】試験後に模範解答を配布し、その場で答え合わせを行う。最終点数はポータルサイトにて、発表する。

教科書・参考書

『速問即答中国語入門編』朱繼征著/朝日出版社/2006年初版発行・2018年第3刷発行

受講に当たっての留意事項

必ず予習・復習をすること。不明点は隨時積極的に質問をして解決すること。履修する学生の実際のレベルに合わせ、適宜授業の進み方や内容を変更する場合がある。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
×		○

学習到達目標

教科書の本文・例文を読む・訳すことだけでなく、中国語で内容を理解し、適切に把握する。課題（作文など）の発表やグループワーク（場面設定の会話練習など）を取り入れ、学んだポイントや表現をしっかりと身に付け、自分の考えを伝えることができる「使える」中国語を目指す。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
320228	X-21-B-1-320228			【1・2年次生】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科 【3年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース 【1~3年次生】経営情報学部経営学科 【1~3年次生】経営情報学部情報システム学科 【4年次生】情報文化学部情報システム学科経営コース 【4年次生】情報文化学部情報システム学科情報コース	専門 専門 専門 × × × ×	選択必修 選択必修 選択 × × × ×	1年 1年 1年 × × × ×
授業科目	担当教員	1	前期				
中国語 1 bB	寺沢 一俊						

授業目的

高度な語学運用能力をもって異文化理解の精神を研ぎ澄まし、国際社会なる多文化情況にあってポジティブに協調的にネットワークを拡張していく意欲と能力を身につける。

中国においては近年めざましい経済発展を遂げ、世界の国々にさまざまな面で大きな影響力を持つようになった。隣国である日本においても中国語による正確かつ即応性のあるコミュニケーション能力がますます必要となっている。中国語のコミュニケーション能力は「聞く・話す・読む・書く」に大別できるが、それぞれが密接な関係をもっている。ここでは、このコミュニケーション能力を支える発音・声調の基礎を身に付け、テキスト課文を正しく音読できるようにしたい。短文の音読、暗誦、聞き取り練習にできるだけ多くの時間を充當し、中国語学習をするうえで不可欠な基礎的能力を身に付ける。

各回の授業内容

第1回	【授】 声調と母音(1) 四声・单母音・複母音 【前・後】 【必要な時間：1時間以上】予習より復習が必要。復習の際には CD 録音を聞きながらピッキング符号と声調符号を正確に読めるように繰り返し練習すること。ピッキング符号のアルファベット綴りや声調符号も書いて覚えること。	第9回	【授】 第2課(2) 疑問文 【前・後】 【必要な時間：1時間以上】予習より復習が必要。復習の際には CD 録音を聞きながらテキスト課文の単語を正確に発音できるようにすること。さらにテキスト会話文の音読を繰り返して暗誦すること。暗誦できたらピッキング符号と漢字で書けるようにすること。
第2回	【授】 子音(1) 有氣音・無氣音 【前・後】 【必要な時間：1時間以上】予習より復習が必要。復習の際には CD 録音を聞きながらピッキング符号と声調符号を正確に読めるように繰り返し練習すること。ピッキング符号のアルファベット綴りや声調符号も書いて覚えること。	第10回	【授】 第3課(1) 動詞述語文-1 【前・後】 【必要な時間：1時間以上】予習より復習が必要。復習の際には CD 録音を聞きながらテキスト課文の単語を正確に発音できるようにすること。さらにテキスト会話文の音読を繰り返して暗誦すること。暗誦できたらピッキング符号と漢字で書けるようにすること。
第3回	【授】 子音(2) そり舌音 【前・後】 【必要な時間：1時間以上】予習より復習が必要。復習の際には CD 録音を聞きながらピッキング符号と声調符号を正確に読めるように繰り返し練習すること。ピッキング符号のアルファベット綴りや声調符号も書いて覚えること。	第11回	【授】 第3課(2) 動詞述語文-2 【前・後】 【必要な時間：1時間以上】予習より復習が必要。復習の際には CD 録音を聞きながらテキスト課文の単語を正確に発音できるようにすること。さらにテキスト会話文の音読を繰り返して暗誦すること。暗誦できたらピッキング符号と漢字で書けるようにすること。
第4回	【授】 子音(3) その他の子音 【前・後】 【必要な時間：1時間以上】予習より復習が必要。復習の際には CD 録音を聞きながらピッキング符号と声調符号を正確に読めるように繰り返し練習すること。ピッキング符号のアルファベット綴りや声調符号も書いて覚えること。	第12回	【授】 第4課(1) 親族の呼称と数字 【前・後】 【必要な時間：1時間以上】予習より復習が必要。復習の際には CD 録音を聞きながらテキスト課文の単語を正確に発音できるようにすること。さらにテキスト会話文の音読を繰り返して暗誦すること。暗誦できたらピッキング符号と漢字で書けるようにすること。
第5回	【授】 母音(2) 前鼻音・後鼻音 【前・後】 【必要な時間：1時間以上】予習より復習が必要。復習の際には CD 録音を聞きながらピッキング符号と声調符号を正確に読めるように繰り返し練習すること。ピッキング符号のアルファベット綴りや声調符号も書いて覚えること。	第13回	【授】 第4課(2) “有”構文 【前・後】 【必要な時間：1時間以上】予習より復習が必要。復習の際には CD 録音を聞きながらテキスト課文の単語を正確に発音できるようにすること。さらにテキスト会話文の音読を繰り返して暗誦すること。暗誦できたらピッキング符号と漢字で書けるようにすること。
第6回	【授】 第1課(1) 人称代名詞 【前・後】 【必要な時間：1時間以上】予習より復習が必要。復習の際には CD 録音を聞きながらテキスト課文の単語を正確に発音できるようにすること。さらにテキスト会話文の音読を繰り返して暗誦すること。暗誦できたらピッキング符号と漢字で書けるようにすること。	第14回	【授】 第5課(1) 主な文成分と指示代名詞 【前・後】 【必要な時間：1時間以上】予習より復習が必要。復習の際には CD 録音を聞きながらテキスト課文の単語を正確に発音できるようにすること。さらにテキスト会話文の音読を繰り返して暗誦すること。暗誦できたらピッキング符号と漢字で書けるようにすること。
第7回	【授】 第1課(2) “是”構文 【前・後】 【必要な時間：1時間以上】予習より復習が必要。復習の際には CD 録音を聞きながらテキスト課文の単語を正確に発音できるようにすること。さらにテキスト会話文の音読を繰り返して暗誦すること。暗誦できたらピッキング符号と漢字で書けるようにすること。	第15回	【授】 第5課(2) 形容詞述語文・構造助詞“的” 【前・後】 【必要な時間：1時間以上】予習より復習が必要。復習の際には CD 録音を聞きながらテキスト課文の単語を正確に発音できるようにすること。さらにテキスト会話文の音読を繰り返して暗誦すること。暗誦できたらピッキング符号と漢字で書けるようにすること。
第8回	【授】 第2課(1) 場所代名詞 【前・後】 【必要な時間：1時間以上】予習より復習が必要。復習の際には CD 録音を聞きながらテキスト課文の単語を正確に発音できるようにすること。さらにテキスト会話文の音読を繰り返して暗誦すること。暗誦できたらピッキング符号と漢字で書けるようにすること。	第16回	【授】 定期試験 【前・後】 主としてテキストの課文と練習問題から出題する。ピッキング符号と漢字の読み書きも練習しておくこと。

成績評価方法

【成績評価】出席率（25%）、小テスト・課題への取り組み（25%）、定期試験（50%）などの結果を総合的に判断する。

【フィードバックの方法】小テスト・課題はチェックをしてから返却し、必要に応じて解説をする。

教科書・参考書

教科書：朱繼征著「即問即答中国語 入門編」 朝日出版社

参考書：講義中に紹介する。

受講に当たっての留意事項

テキストの単語や文は音読して正確な発音で流暢に読めるようにすること。さらに音読を繰り返して暗誦する習慣をつけること。学習した中国語はすべてピッキング符号と漢字で書けるようにすること。

実務経験のある教員による授業科目有無	実務経験と授業科目との関連性	アクティブラーニング（ディスカッション、グループワーク、発表等）の実施
○	公式通訳経験のある教員が発音・声調の正確さを重視した、聞き取りやすい中国語を話せるよう指導する。	×

学習到達目標

中国語学習において基本的な能力として要求されるピッキング符号と声調符号を正しく「読み・書き」できる技術を身に付ける。単音節単語から2音節単語、さらに3~4音節からなる文節へと発音訓練を進め、10音節程度の文を流暢に音読でき、さらに暗誦できるようにしたい。あわせて中国語の基礎文法についても、知識だけでなく応用できるようにしたい。

JABEE

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習